

# 印刷カード通信

No. 53

編集・発行 国立国会図書館

1979. 11. 20



## 「日本目録規則」適用細則 第2版全文の掲載について

昭和53年1月から収集整理部の和漢書整理作業には、「日本目録規則 新版 予備版」を適用しております。本「印刷カード通信」の45号, 47号, 51号において, 作業上の必要に応じてこれに加えた訂正・補充等を適宜掲載してお知らせしてまいりました。

今回業務上の必要から, 今までの作業実施のなかで発生した具体的な修正点をすべてもりこんだ, 適用細則の第2版をまとめました。

印刷カード利用の各位のご参考にご供するため, 本号で, この細則の全文を掲載することといたしました。今後発生する修正点も, 本通信を用いて適当な機会にお知らせする予定であります。

## 「日本目録規則」適用細則

### 2.1.2 記述の対象とその情報源

#### 2.1.2.1 (記述の対象) 図書は、1冊ずつ記述する。

多巻ものは分割記入とする。ただし、セットものの全巻を同時に目録するときは、一括記入とする。(刊年が2年以上にわたるときは、入力データ票の基本項目刊行年には最新年を記載する)

#### 2.1.2.2 (記述の情報源) 記述は原則として、その図書に表示されている事項をそのまま記載する。記述のよりどころとすべき情報源は、つぎの優先順位による。

- ① 標題紙(標題紙裏を含む)、奥付、背、表紙
- ② 前扉、巻頭
- ③ 序文、あとがき、本文等
- ④ カバー、箱、広告ページ等
- ⑤ その図書以外の情報源

#### 2.1.2.3 (各書誌的事項の情報源) その図書全体を各書誌的事項の情報源とする。図書以外から得た情報は、角がっこに入れて記載するが、注記と定価には角がっこを用いない。(カバーなどに重要な情報源があれば、裏表紙、奥付に張り込む)

### 2.1.3 記述すべき書誌的事項とその記載順序

記述すべき書誌的事項とその記載順序は、つぎのとおりとする。

#### (1) 書名と著者に関する事項

- ① 書名
- ② 副書名、巻次(または回次、年次)
- ③ 著者表示

#### (2) 版に関する事項

- ④ 版表示
- ⑤ 特定の版にのみ関係のある著者の表示

#### (3) 出版に関する事項

- ⑥ 出版地
- ⑦ 出版者
- ⑧ 出版年

#### (4) 形態に関する事項

- ⑨ ページ数
- ⑩ 大きさ

#### (5) 叢書名に関する事項

- ⑪ 叢書名

#### (6) 注記に関する事項

##### ⑫ 注記

#### (7) 装丁、定価

(ただし、入力用原稿作成時の記載順序は(1)(2)(3)(4)(7)(5)(6)とする。)

### 2.1.4 記述の方法

#### 2.1.4.1 (カード上の記載位置) 記述は、目録用標準カード(75×125mm)を用い、その記載位置は、p 28の例による。

#### 2.1.4.2 (文字) 漢字は、原則として、当用漢字表等による字体で記載する。

楷書以外の書体は楷書体に改める。かなはそのまま記載するが、変体がなは平がなに改める。

ローマ字はそのまま記載し、その大文字使用法はその言語の慣行に従う。

#### 2.1.4.3 (数字) 書名および著者表示等のなかの数字はそのまま記載する。その他の場合はアラビア数字を使用する。ただし、識別のために2様以上の数字を用いているときは、そのまま記載する。

現代俳句女流シリーズ II・2

#### 2.1.4.4 (誤記、誤植) 書誌的事項の明らかな誤りは正しい形に訂正して記載し、必要があればもとの形を注記する。

脱字は角がっこに入れて補記する。

#### 2.1.4.5 (複製本) 複製本は、新しい標題紙等によって記載し、複製された原本の標題紙等について、必要事項を注記する。なお、原本の事項しかないものは、原本にもとづいて標題から出版事項までを記載し、複製に関係ある事項が判明すれば、その旨を注記する。(注:複製部数が1部である場合もふくむ)

擬山海經 5巻 玄光輯

〔出版地不明〕 林五郎兵衛 元禄15(1702)

5冊 26cm

駒沢大学所蔵本を国立国会図書館で電子複写したもの

和装

原本にもとづくときは、よりどころとする情報源の優先順位にこだわらない。

### 2.2 書名と著者に関する事項

#### 2.2.1 書名

**2.2.1.1** (書名) 書名は、標題紙、奥付、背、表紙から、そこに表示されている形をそのまま転記するが、書名の一部が、2行書きまたは小さな文字で表示されているときは、原則として1行書きまたは書名の他の部分と同じ大きさの文字に改める。

書名に付されたルビは記載しない。

書名の上または前に、副書名、巻次、年次等、著者名、版、出版者名、叢書名、およびその他の語句が表示されているときは、これらの語句は、それぞれ該当する事項の記載位置に記載する。

細部は「書名の取扱基準」(p 25)による。書名の冒頭にある「統」等の取扱いについては、文字の大小にかかわらず、それが巻次などを表わすと判断されるときは、巻次の位置に記載する。

続日本紀

続日本随筆大成

冬の華 統

冬の華 第3

**2.2.1.2** (情報源によって書名の表示が異なるもの) 標題紙、奥付、背、表紙に表示されている各書名が異なるときは、一番妥当と判断されるものをとる。他の書名は注記する。

**2.2.1.3** (日本語と外国語の書名) 標題紙等に日本語と外国語の書名があるとき、または双方とも別の標題紙があるときは、日本語の書名を記載し、外国語の書名のみ表示されている情報源があればそれを注記する。

(註) 翻訳書で、標題紙等に原書名のみが表示があるときは、これを注記する。

日本語以外の言語の本文もあるときは、外国語書名の注記のあとに「英文併記」の形で注記を加え、これがISBDの並列書名であることを示す。

(ただし、対訳ものや辞書を除く)

斜長石光学図表 坪井誠太郎〔ほか〕著

英語書名: Charts of plagioclase optics

英文併記

**2.2.1.4** (本文と言語が異なる書名) 本文が日本語で、標題紙等の書名が外国語で表示されている、その図書中に日本語の書名の表示がないときは、書名を外国語で記載し、「本文は日本語」と注記する。

**2.2.1.5** (合集の書名等) 標題紙等にその図書全体の総合書名があり、同時にその図書に含まれている著

作のそれぞれに対する書名等が表示されているときは、その総合書名を書名として記載し、他は注記の位置に記載する。

文学は何ができるか

東京 福村出版 1972

内容: 文学と前衛性 山村嘉巳著. 文学の自律性 植松健郎著. 文学の党派性 小川 悟著. 文学の前衛性と構造主義 渡辺幸博著

総合書名がなく、各著作の書名等が表示されているときは、各著作の書名、著者表示を標題紙等に表示された順につづけて記載する。

播州平野・風知草 宮本百合子著

板橋雜記 余懷〔著〕 岩城秀夫訳. 蘇州画船録

西溪山人〔著〕 岩城秀夫訳

**2.2.1.6** (別冊である統編、補遺、索引の書名) 別冊である統編、補遺、索引の書名が正編または本編の書名と異なるときは、別冊の書名を記載し、正編または本編の書名を注記する。

**2.2.2** 副書名

副書名は、書名につづけて、その図書に表示された形をそのまま記載する。ただし、副書名の長いもの、多巻もの・年刊もので各巻により副書名の異なるもの、副書名に準ずるが、副書名の位置に記載しない方がよいもの等は、注記の位置に記載する。

別書名は副書名に準ずる。

**2.2.3** 巻次、回数、年次

**2.2.3.1** (巻次、回数、年次) 標題紙等に表示されている巻次、回数、年次等は、書名(副書名を含む)につづけて記載する。

巻次、回数と年次の双方が表示されているときは、巻次、回数のあとに年次を丸がっこに入れて記載する。同一年次の図書が2分冊以上あることを示す冊次は、年次のつぎに記載する。

“……年版”となっていれば、内容が改訂版であっても年次として扱う。

**2.2.3.2** (多巻ものの各巻の書名等) 標題紙等に表示されている多巻ものの各巻の書名等は、注記の位置に記載する。

原則として版次は各巻書名のあとにつけず、多巻ものの全体の書名のあとにつける。

**2.2.4** 著者

**2.2.4.1 (著者表示)** 著者表示は、書名につづけて、その図書の著者(個人または団体)、あるいはその著作に関与した副次的な著者(編者、訳者、校訂者等)

(注1)に、著作の種類を示す語(著、共著、作、文、画、撮影、作曲、編等)を後に付して記載する。

これらの語は、表示された形を用いるが必要あれば形を統一し、まぎらわしい表示となるときは句読点などを付記してわかりやすい形にする。

外国人名のイニシャルにはピリオドを付す。

著者表示は、標題紙等に表示されているもののうち、もっとも適切なもの(注2)を選んで記載する。

標題紙等に著者表示がなく、その図書の本文、解説等から著者が判明したときは著作の種類を示す語だけ角がっこに入れて記載する。

図書中に著者表示がなく、その図書以外の他の情報源から著者に関する情報をえたときは、情報源に関する注記はしない。

(注1) 標題紙等に表示されている監修者、監訳者、校閲者、多数の分担執筆者、序文執筆者等は、原則として記載しない。これらは必要があれば注記の位置に記載する。訳者であって同時に監訳者であるものは著者表示に入れる。(監訳者を著者表示に記載したときは、分担翻訳者は注記する。)解説者は原則として、標題紙にあれば著者表示に入れる。その他の情報源にあるときは必要な場合のみ注記する。

(注2) たとえば、翻訳書の原著者が標題紙には原綴で表示されているが、奥付にはかなで表示されているとき、著者表示にはかなの表示をとる方がより適切である。

(注3) 書名にその著者名をふくむときで、書名によってその著者がわかるときは、著者表示を記載しない。

青木周蔵自伝 坂根義久校注  
日本板硝子株式会社五十年史  
ハイネ詩集 井上正蔵訳  
アンドレ・ジイド＝ロジュ・マルタン・デュ・  
ガール往復書簡 1 ジャン・ドレ編 中島昭和訳  
ただし、日本人名が完全な形でふくまれていないとき、副書名のみはその著者名をふくむときは、著者表示を記載する。

鷗外全集 森林太郎著

郷土とともに五十年 松本信用金庫五十年誌

松本信用金庫編

また著者表示がないと著作の種類が不明になるとき、人名のみの書名のときも、著作の種類を示す語を付し、著者表示を記載もしくは補記する。

会津八一の法帖 会津八一〔書〕

梅原龍三郎 梅原龍三郎画

**2.2.4.2 (著者表示の記載順序)** 2以上の著者(副次的な著者を含む)の表示があるときは、その記載順序は、原則として標題紙等の表示の順による。もし、標題紙、奥付、背、表紙のうち、一つの情報源だけでは完全な形とならない場合は、他の情報源の表示から補って完全な形とする。この場合の記載の順序は、その著作の成立過程からみてそれらの間に一定の順序があれば、その順による。

(例) たとえば、古典の校訂書の場合の原著者、校訂者の順とか、翻訳書の場合の原著者、訳者の順とか、ある個人の著作を他の編者が編集した場合の著者、編者の順をいう。

**2.2.4.3 (肩書等の省略)** 著者に付されている学位、役職名等の肩書、あるいは団体名の冒頭に表示されている法人組織を示す語は、とくに必要のないかぎり著者表示から省略する。「――役所」「――役場」の役所と役場の語は記載しない。

**2.2.4.4 (著作の種類を示す語の補記)** 著者の表示に、著作の種類を示す語がないときは、その語を著者名のあとに角がっこに入れて補記する。著者表示がなく、本文や解説等その図書中から著者が判明する時は、著作の種類を示す語のみ角がっこに入れて補記する。  
アーサー 卿の犯罪 ワイルド〔著〕 福田恒存、福田 逸訳  
四季 東山魁夷〔画〕

風景 土門 拳〔撮影〕 菅野梅三郎編

**2.2.4.5 (著者の省略)** 2以上の著者、あるいは副次的な著者が標題紙等に表示されているときは、それぞれ2の場合はそのまま記載し、3以上の場合は最初のまたはおもな1著者を記載し、「〔ほか〕」と補記して、他は省略する。

## 2.3 版に関する事項

### 2.3.1 版表示

**2.3.1.1 (版次)** 版次は、著者表示につづけて標題紙等に用いられている表示をそのまま記載する。ただ

し、初版の表示は記載しない。

**2.3.1.2** (刷次) 内容に改訂、増補を加えない刷次は原則として記載しないが、必要があれば注記する。

露伴全集 幸田露伴著

東京 岩波書店 1978

第2刷(第1刷:昭和27年)

㊦ 第1刷は40巻と別冊,第2刷は42巻

虞美人草 夏目漱石著 改版

東京 岩波書店 1972

第33刷(第1刷:昭和14年)

㊦ 第1刷は401p,第33刷は402p

**2.3.1.3** (特殊な版表示) 刊行された図書の特殊な種類を示す版表示は、注記の位置に記載する。

**2.3.2** 特定の版にのみ関係のある著者の表示

特定の版にのみ関係のある著者の表示は、版表示につづけて記載する。

## 2.4 出版に関する事項

### 2.4.1 出版地

**2.4.1.1** (出版地) 出版地は、出版者が所在している市町村名を記載する。町村には原則として都道府県名を丸がっこに入れて付記する。市でも識別上必要があれば都道府県名を丸がっこに入れて付記する。

府中(東京都) 府中(広島県)

㊦ 市名の「市」は記載しない。

東京都特別区は、「東京」とのみ記載する。

**2.4.1.2** (2以上の出版地) 同一出版者で出版地が2以上あるときは、最初に表示されているものを記載する。

**2.4.1.3** (出版地不明) 出版地がその図書に表示されていないときは、他の情報源から、または推定により出版地を角がっこに入れて記載し、出版地を推定することができないときは、「〔出版地不明〕」と記載する。

### 2.4.2 出版者

**2.4.2.1** (出版者) 出版者は、その図書に表示されている名称を記載する。ただし、出版者名に付されている法人組織を示す語は記載しない。「——役所」「——役場」の形の役所と役場の語は記載しない。「東京都府中市」とあるときは「府中市」の形で表示する。

私家版は個人名を記載する。(この場合、出版者と

して明示されていなくても角がっこは用いない。)

**2.4.2.2** (2以上の出版者) 出版者が2以上表示されているときは、おもな出版者を記載する。それが判明しないときは、最初に表示されている出版者を記載する。記載しなかった出版者は注記する。

**2.4.2.3** (出版者不明) 出版者がその図書に表示されていないときは、推定により出版者を角がっこに入れて記載し、出版者を推定できないときは、「〔出版者不明〕」と記載する。

**2.4.2.4** (発売、製作、印刷) 発売地、発売者、製作地、製作者、印刷地、印刷者は、原則として記載しない。ただし、これらが出版地、出版者に代わるものであるときは、それらを記載し、発売者、製作者、印刷者にそれぞれ「(発売)」「(製作)」「(印刷)」と付記する。出版者があっても、名称の冒頭部が出版者名と一致しない発売者は注記する。

### 2.4.3 出版年

**2.4.3.1** (出版年) 出版年は、その図書に表示されている最新の出版年を西暦紀年で記載し、そのあとにピリオドを付して月を付記する。古書等についてはその図書に表示されている紀年をそのまま記載しそのあとに西暦紀年を付記する。

**2.4.3.2** (出版年不明) その図書に出版年の表示はないが、著作権表示年または印刷年の表示があるときは、これを記載し、著作権表示年についてはその前に「c」、印刷年についてはその後「印刷」と付記する。

c 1979

1978印刷

以上によっても出版年が不明のときは、本文によってその図書のおおよその出版年代を推定し、これを角がっこに入れて記載する。

{ 1975 }

{ 1972? }

{ 1970頃 }

{ 197— }

{ 19— }

## 2.5 形態に関する事項

### 2.5.1 ページ数

**2.5.1.1** (ページ数、丁数、枚数) ページ数、丁数、枚数、欄数は、印刷された最終数をアラビア数字で記

載し、それぞれ、「p」、「丁」、「枚」、「欄」と付記する。

(注1) ローマ数字は区別のため特に必要なときそのまま記載する。

(注2) 巻もの、畳ものは、それぞれ「1軸」、「1枚」と記載する。

(注3) ページ付等に誤記があったときは、印刷されている数字をそのまま記載し、正しい数字を角がっこに入れて付記する。

29〔正しくは30〕丁

**2.5.1.2** (2種以上のページ付) ページ付が2種以上に分かれた図書は、前づけを除き3種までのとき、各ページ付ごとにコンマ(,)で区切って記載する。ページ数の記載が繁雑にわたるときは、「1冊」と記載する。

多巻のものを一括記入するとき、別冊が含まれているとき等、複数冊の場合は、ページ数を記載する位置に冊数を記載する。(この場合冊数はなるべく登録番号と一致させる)

2冊

2冊(別冊とも)

10冊(合本2冊)

**2.5.1.3** (ページ付のない図書) ページ付のない図書は「1冊(頁付なし)」と記載する。

ただし、ページ付のない図書で図版のみで構成されている場合は、図版の枚数をかぞえて「図版30枚」のように記載する。

加除式の図書は、たとえページ付があっても「1冊(加除式)」と記載する。

**2.5.1.4** (途中からはじまるページ付) ある図書の一部分(多巻ものの1冊、抜刷等)を示すページ付は、その最初と最後のページ付を波ダッシュ(~)で結んで記載する。この場合、ページ付を示す語「p」は数字の前に記載する。

p 501~825

**2.5.1.5** (図版) 本文の一連のページ付に入っていない図版があるときは、本文のページ数につづけて「図版」としてそのページ数または枚数を記載する。この場合、図版にページ付があれば、ページ数を、ページ付のないとき、あるいはページ付と枚付の両方があるときは枚数を記載する。枚数はかぞえても角が

こは使用しない。

ただし、図版が少量(原則として10枚未満)のときは、図版の記載を省略してもよい。

図版のみの図書の場合は、ページ数記載の位置に「図版」としてそのページ数または枚数を記載する。

## 2.5.2 挿図、肖像、地図、表等

挿図、肖像、地図、表等について記載する必要があるときは、これを注記の位置に記載する。

## 2.5.3 大きさ

**2.5.3.1** (大きさ) 大きさは、表紙の高さをセンチメートルの単位で、端数は切り上げて記載する。

(注) 表紙の高さが10cm以下のものは、センチメートルの単位で小数点以下1桁まで記載する。

**2.5.3.2** (変型本の大きさ) 縦長本(縦が横の2倍以上あるもの)、横長本(横が縦より長いもの、ます形を含む)は、縦、横の長さを「×」印で結んで記載する。

(注) 巻ものは、料紙の高さを、畳ものは、広げた形の縦、横の長さを「×」印で結んで記載するが、両面印刷の1枚もの場合は、たたんだ形の縦の長さを記載し、「折りたたみ」と注記する。

## 2.5.4 付属資料

付属資料は、注記の位置に記載する。

## 2.6 叢書名に関する事項

### 2.6.1 叢書名

叢書名は、その図書に表示されている形を、大きさのつぎに丸がっこに入れて記載する。(ただし、入力用原稿カードでは、改行して記載する。)図書以外から補ったときは、(〔叢書名〕)の形とする。

### 2.6.2 2以上の叢書名

その図書が2以上の叢書に属しているときは、それらの叢書名をおのおの丸がっこに入れて記載する。(ただし、入力用原稿カードでは、2番目以下の叢書は丸がっこに入れて注記の冒頭に記載する。)

神楽舞 句集 吉田鴻司著

東京 牧羊社 1977

183p 20cm (現代俳句選集 21)

(河叢書 第31篇)

### 2.6.3 副叢書名

その図書が1叢書中の副叢書に属しているときは、叢書名につづけて副叢書名を記載する。

石炭業界 矢田俊文著

〔東村山〕 教育社 1977

278 p 18 cm (教育社新書 産業界シリーズ  
45)

#### 2.6.4 叢書番号

叢書内に番号付があるときは、その番号を叢書名につづけて記載する。

パブリッシャーズシリーズの文庫版と新書版には叢書番号をつけない。(パブリッシャーズシリーズは次のように定義する：出版社が企画・刊行する、主題が広範囲にわたる一般的なシリーズ。新書版か文庫版のことが多く、内容は古典とか時局ものこともある。普通出版社名を冠しているが、「教養文庫」のような一般名称のこともある)

#### 2.6.5 編者

標題紙等に叢書の編者の表示があるときは、必要があればこれを注記する。(p 16 2.7.7.2 参照)

### 2.7 注記に関する事項

#### 2.7.1 注記

注記は、目録作成者が各書誌的事項の記述に説明を加える必要があると認めたときに記載する。また、その図書の記述に関連する内容についても必要があれば記載する。

#### 2.7.2 記述一般に関する注記

書誌的事項の誤記、誤植を正しい形に訂正して記載したときは、もとの形を注記する。

核エネルギー開発と原子力問題 跡部行著

誤植された表紙の著者表示：新井光雄

#### 2.7.3 書名と著者に関する注記

##### 2.7.3.1 (書名)

(1) 情報源によって書名の表示が異なるときは、記載した書名の情報源と、記載しなかった他の書名およびその情報源を注記する。記載した書名の情報源が標題紙のとき、これは注記しない。

(2) 日本語と外国語の書名があるときで、標題紙等に外国語書名のみの表示があるときは外国語の書名を注記する。

アシエット女性百科全書

背・表紙の書名：Encyclopédie de la femme  
et de la famille

(3) 書名が外国語のみであるときは、「本文は日本語」

と注記する。

An introduction to Brazil C.ワグラー著  
山本正三訳

本文は日本語

(4) 翻訳書は原則としてその原書名を注記する。

英・独・仏・伊・スペイン・オランダ等の各言語の翻訳書を対象とするが、フィクション・編さんものは除く。

原書名の副書名は原則として記載しない。必要なときは「：」を前置して記載する。

原書名を記載した場合には「原著第〇版の翻訳」という注記はしない。

The Camerons. 2nd ed.の翻訳

(註) この注記は当分『納本週報』のみに出力され、印刷カード上では省略する。

(5) 別冊である続編、補遺、索引の書名が正編または本編の書名と異なるときで、それが明示されている場合、正編または本編の書名を注記する。

(6) 総合書名のほかにその図書に含まれている著作の書名が表示されているときは、各著作の書名、著者表示を内容細目として注記する。

(7) 書名につづけて記載しなかった副書名は、これを注記する。

靴をつくる 鈴木玲子著

副書名：歩く道具く靴の条件と、トータルファッションの中での生かし方から作り方まで

「続」編の副書名：○○○○○

1979年版の副書名：○○○○○

(8) 多巻ものの各巻の書名等が表示されているときは、巻次、書名、著者表示の順にこれを注記する。

各巻書名がない場合は、内容細目のみを記載する。各巻に関する、内容細目と書誌等に関する注記のみ、各巻書名のあとに記載する。

巻次と各巻書名が複雑な構成をしているときは、例示のように記載する。

情報科学講座 E・18・1 北川敏男〔ほか〕編

E・18・1 情報系モデル 18 自己組織化モデル 1

神経回路と自己組織化—自己組織化のモデル 福島邦彦

2.7.3.2 (著者) 監修者、監訳者、校閲者、多数の分担執筆者・分担翻訳者が標題紙等に表示されているときは、これを注記する。標題紙以外の情報源にある

解説者は必要があれば注記する。

#### 2.7.4 版および書誌的来歴に関する注記

**2.7.4.1** (版および書誌的来歴) その図書とその図書の他の版または他の図書との関係を説明する必要があるときは、これを注記する。

ある図書の改訂版が異なる出版者によって出版されたときもこれを注記する。

馬の能力試験 小倉喜佐次郎著 増訂版

東京 芦書房 1979.5

初版：台湾畜産会 昭和17年刊

翻訳書の原書の版次は注記する。

原著第3版の翻訳

**2.7.4.2** (複製本、抜粋、抜刷) 複製本は、複製された原本の標題紙等について必要事項を注記する。

複製本に原本の事項しかないときは、複製に関係のある事項が判明すればその旨を注記する。

自筆稿の複製であるときも注記する。

気の弱い一市民の手記 竹久夢二著

手稿の複製

抜粋、抜刷はその原本について注記する。

**2.7.4.3** (特殊な版表示) 刊行された図書の特殊な種類を示す版表示は、これを注記する。

昭和34年刊の重版、愛蔵版、

縮刷版、特装版、新装版、

豪華版、普及版

#### 2.7.5 出版に関する注記

**2.7.5.1** (出版者) その図書の他の出版者について説明する必要があるときは、これを注記する。

2以上の出版者が表示されているとき、記載しなかった出版者は、「共同刊行：大分県指導漁協連合会」の形で注記する。

発売者を注記するときは、発売地が出版地と異なる場合のみ発売地を丸がっこに入れて付記する。

**2.7.5.2** (印刷、複写) 印刷、複写の種類について「謄写版」(手書きの場合のみ)と「電子複写」「青写真」「リキッド式複写」はこれを注記する。

#### 2.7.6 形態に関する注記

**2.7.6.1** (ページ数) ページ数について説明する必要があるときは、これを注記する。

左右同一頁付

片面印刷(偶数ページが空白の場合)

**2.7.6.2** (挿図、肖像、地図、表等) 挿図、肖像、地図、表等について説明する必要があるときは、これを注記する。肖像は、目録の検索・利用上の状況も勘案し、対象となる人名が明記できる利用価値の高い場合のみ注記する。(伝記の被伝者、著者、書名中にその人名の出ている人等、標目指示するもの)

著者の肖像あり

山川菊栄の航跡 外崎光広、岡部雅子編

山川菊栄の肖像あり

張り込みの図等はその枚数を示して注記する。

はり込図10枚

折り込図8枚

**2.7.6.3** (大きさ) 大きさについて説明する必要があるときは、これを注記する。

折りたたみ 24×15cm

**2.7.6.4** (付属資料) 付属資料があるときは、これを注記する。

記載にあたっては、最初に「付属資料」と記載し、つづけてその資料の種類を示す名称を丸がっこに入れて記載する。付属資料が独立のページ付、異なった種類の図版、異なった大きさをもつときは、これを資料の種類を示す名称と共に丸がっこに入れて記載する。資料の内容を示す名称があればそのあとに記載する。

ACC CM年鑑 1976 全日本CM協議会編

東京 三彩社 1976

付属資料(レコード5枚)：第15回ACC

CMフェスティバル ラジオCM・CMソング地域

ラジオCM入賞作品

形態的に独立している付録、解説等は付属資料に準じて扱う。

付(地図2枚)

別冊(150p 20cm)：○○○○

付(別冊40p 15cm)：解説

#### 2.7.7 叢書名に関する事項

**2.7.7.1** (原本の叢書名) 複製の原本がかつて叢書の1冊として刊行されていることを説明する必要があるときは、これを注記する。

書誌学 小見山寿海著

東京 図書館短期大学同窓会橋会 1971

205p 22cm

芸艸会叢書 第2篇(芸艸会 昭和6年刊)の複製



**2.7.7.2 (編者)** 叢書の編者は、個人名は注記しない。団体名は叢書名中にその名称が含まれていないものについてのみ注記する。

神の恵みの神学 P. ネメシュギ, 額額康兵共著  
(現代神学叢書 1)

叢書の編者: 上智大学神学部

## 2.7 [ B ] 装丁等に関する注記

和装本は「和装」と注記する。(入力用原稿カードでは、大きさの次に記載する)

複数冊のうち一部に和装本が含まれているときは「一部和装本」と注記する。(入力用原稿カードでも一般注記の位置)

加除のないルーズリーフ形態のときは、「ルーズリーフ」と注記する。

通常の図書の形であって、綴じていない場合は、「未装丁」と注記する。

図書が箱や帙に入っているときは、注記する。

箱入

帙入

## 2.7 [ E ] その他の注記

限定版は注記する。

展覧会、学会等の会期・会場は、必要があれば注記する。

## 2.7.8 内容に関する注記

### 2.7.8.1 (内容細目)

総合書名とともに標題紙等に表示されている各著作の書名は内容細目として注記する。

その図書が同一著者の2以上の著作を含むとき、または2以上の著者の著作を含むときで次のような場合は、各著作の書名を内容細目として注記する。

- (1) 本書名、各巻書名ではその内容が不明確なとき
- (2) 単行書として刊行される可能性をもつ著作が収録されているとき

記載にあたっては、最初に「内容:」と記載し、つづけて書名、著者表示を図書の表示にしたがって列記する。

内容: 茂吉先生の画について 加藤洵綾著. 茂吉画

業余話 板垣家子夫著. 茂吉先生と絵 佐藤佐太郎著. 父の絵 斎藤茂太著. 斎藤茂吉日記抄

(注1) その図書に26以上の著作が含まれているときは、最初の著作の書名等を記載し、他は「ほか〇〇編」として省略する。

(注2) 学会の講演集、講義テキスト、対談集、シンポジウムの記録等は内容細目を記載しない。

(注3) 万葉集、源氏物語等、分冊の各冊に含まれている「巻」を表示しないと請求すべき「巻」の所在を知るのが困難な場合は、

内容: 巻1~巻3 のように注記する。

**2.7.8.2 (付録, 解説)** その図書に付録、解説等が含まれているときは、これを注記する。

付: 改造目次総覧

**2.7.8.3 (書誌, 年譜, 年表)** その図書に書誌、年譜、年表等が含まれているときは、これを注記する。

文献、参考文献、年表、年譜等の注記記載例

① 本文中にある場合

参考文献: p 〇〇〇~〇〇〇

参考文献: p 〇〇〇

② 本文中で各章の終わりに文献をあげている場合  
各章末: 参考文献

各章末: 文献

③ 本文の頁とは別に、巻末に含まれている場合

巻末: 参考文献(〇〇p)

巻末: ヒルファディング重要著作目録・参考文献

巻末(50p): 〇〇〇の文献 山田太郎編

④ 前項に該当しない場合

付: 参考文献

(注) 「〇〇〇に関する文献」等用語はその本の記載通りに書く。

瓦窯跡関係主要文献目録: p 231~243

長浜政寿先生略歴・著作目録: p 419~426

野中氏系図・兼山時代年表: p 233~247

## 2.8 定価に関する事項

**2.8.1** 定価は「〇〇〇円」とカード右下すみに記載する。非売品の表示があるときは「非売品」と記載する。(入力用原稿カードでは、大きさ、装丁の次に記載する)

1部2冊以上の図書は、各冊の定価が等しいときは「各〇〇〇円」、各冊の定価が異なるもので2冊のと

きは「〇〇〇円，〇〇〇円」，3冊以上のときは，定価の安いものから高いものへ「〇〇〇～〇〇〇円」と記載する。1部数冊のセット定価を記載するときは「全〇〇〇円」と記載する。

発行年がふるいものは原則として定価を記載しない。

## 2.9 一括記入

多巻ものについては，一括記入（全巻レベル）と各巻レベルの記入を合成した形とする。

全巻レベルの記入

- (1) 書名は共通書名を記載する。（2.9.1）
- (2) 巻次は記載しないが，古書は例外とする。（2.9.2）
- (3) 著者表示は，共通の著者名等を記載する。（2.9.3）
- (4) 版次は共通の版次を記載する。（2.9.4）
- (5) 出版地，出版者は共通のものを記載し，出版年は，最初の年月と最後の年月を波ダッシュ（～）で結んで記載する。（2.9.5）
- (6) 冊数と大きさを記載する。（2.9.6）
- (7) 全巻に共通する叢書名は丸がっこに入れて記載する。全巻共通の注記は，特に必要なもののみ記載する。

各巻レベルの記入

各巻に特有な記載事項は，内容注記の位置に以下に示す順序で記載する。（2.9.7）

- (1) 巻次，回次，年次
- (2) 各巻書名と著者表示
- (3) 各巻の内容細目（「内容：」の形とする）

## 3. 標目

### 3.1 標目の範囲

標目はつぎの範囲とする。

- ① 書名，叢書名を含む。
- ② 著者名 その図書の成立に関与した人名，団体名を含む。
- ③ その図書が扱っている主題を示す件名標目
- ④ その図書が扱っている主題を示す分類標目

但し 標目はつぎの各項をそのよりどころとする。

- (1) 記述中に含まれる書名，著者名
- (2) 記述中にないが参照によって導かれる書名，著者名

### 3.2 標目の選び方

#### 3.2.1 書名標目

##### 3.2.1.1 （標目とする書名） つぎの書名は標目とする。

- (1) 書名の位置に記載されている書名  
但し 総合書名がない合集で，各著作の書名が列記されている場合，それぞれの書名は標目とする。

##### (2) 副書名の位置に記載されている別書名

#### 3.2.1.2 （必要に応じて標目とする書名） つぎの書名は必要に応じて標目とする。

- (1) 書名中の修飾語または修飾部を除いた部分書名
- (2) 副書名
- (3) 叢書名
- (4) 注記に記載されている書名
- (5) 多巻ものの各巻の書名，ただし列記されている著作数が4以上あるときは，標目指示を一切省略する。

#### 3.2.2 著者標目

##### 3.2.2.1 （標目とする著者） 著者表示として記載されている個人，団体は，著者標目とする。

2.2.4.1（注3）により著者表示を省略した場合の，書名中の個人もしくは団体著者は著者標目とする。

##### 3.2.2.2 （必要に応じて標目とする著者） つぎの著者は必要に応じて標目とする。

- (1) 注記に記載されている個人，団体
- (2) 多巻ものの各巻の著者表示に記載されている個人，団体。著者表示を省略した場合も前項に準ずる。
- (3) 出版事項中の団体（商業出版社を除く）

注：著者表示の記述は標題紙，表紙，奥付などの表現，まえがき等から判断して行なう。

##### 3.2.2.3 （著作の種類による著者の段階的取扱い）

標目の選択にあたって段階を設けるときは，つぎの基準による。

- (1) 標目とするもの  
著者，編纂者，翻案者，改作者，脚色者
- (2) 必要に応じて標目とするもの  
訳者，注釈者，評釈者，校訂者，訓点者，解説者，挿絵画家，監修者，監訳者，校閲者，編者
- (3) 原則として標目としないもの

特定の図書を刊行するために設けられた編さん委員会，刊行委員会等は標目としない。（必要ならば，これを設けた団体名を標目とする。）

全集，講座類の全巻共通の编者については，それが著者表示の位置に記載されていても標目とはしない。

##### 3.2.3.2 （固有名）

㊦ 記念論文集の被記念者は著者標目とする。

### 3.3 標目の形

㊦ 標目の表わし方は、3.4.3を見よ。

#### 3.3.1 書名標目

書名は、記述に記載されている形を標目とする。

#### 3.3.2 著者標目

##### 3.3.2.1 人名

###### 3.3.2.1.1 (人名)

(1) 人名は、原則として最初に目録記入を作成する図書に表示されている形を統一標目とする。(人名典拠ファイルですでに使用したものはそのまま使用する。)

著名な、あるいは著作の多い著者については、統一標目はつぎの優先順位による。

① 参考資料において多く用いられている形  
(明治以前の仏家、漢学者については現行のままとする。)

② 多くの著作で一致している形

㊦ 古代ギリシャ人名は、ギリシャ語形を統一標目とする。

(2) 図書に姓または名しか表示されていない著者は、その姓または名を標目とする。

(例) 梁田

㊦ 図書の表示は「をだまき集 梁田氏著」  
園

㊦ 図書の表示は「園女奉納千首和歌 園女作」

(3) 名のみ著者は、その名を標目とし、必要事項を付記する。

(例) ビウス(2世)

フリードリヒ(2世, プロイセン国王)  
空海

(4) 改姓改名した著者が、新旧の姓名で著作をしている場合は、それぞれの図書に表示されている姓名を標目とする。(新設標目のみ適用 参照:相互に)

3.3.2.1.2 (著作上異なった名称を用いる著者) 同一著者が著作の内容によって2以上の名称を使い分けるときは、それぞれの形を標目とする。(今後目録する図書に、該当する場合があったときに適用し、一方参照を相互参照にかえる)

3.3.2.1.3 (同名異人) 同名異人は、生年または没年、もしくは世系で区別する。生没年で区別できない

ときは、さらに職業、専門分野、世系等を付記して区別する。

#### 3.3.2.2 団体名

##### 3.3.2.2.1 (団体名)

(1) 団体名は、原則としてその団体の出版物に多く表示されている形を統一標目とする。

㊦ 団体名の冒頭にあつて、その団体の法人組織、創立の趣旨等を表示する部分は省略する。

(2) 団体の名称に変更があつた場合は、それぞれその著作当時の名称を標目とする。(参照:相互に)

(3) 団体の内部組織は、その団体の名称を標目とする。(日本の中央官庁の内部部局、東京都などについては局までとし、局がないときは部までとし、当分の間、副標目形とする。)

3.3.2.2.2 (同名異団体) 同名異団体は、所在地、創立年等を付記して区別する。

##### 3.3.2.2.3 (国の行政機関)

㊦ 外国の行政機関は3.3.2.2.8(2)を見よ。

(1) 国の行政機関は、その名称を標目とする。

(例) 文部省 人事院 会計検査院 林野庁  
東京高等検察庁

(2) 国の行政機関の付属機関は、その名称を標目とし、必要に応じて所轄行政機関名を丸がっこに入れて付記する。

(例) 法務総合研究所 国立がんセンター  
農業観測審議会 工業技術院

(3) 国の行政機関の出先機関(地方支分部局)は、その名称を標目とし、必要に応じて所轄行政機関名を丸がっこに入れて付記する。

(例) 大阪通商産業局 九州地方建設局  
東京税関 札幌管区気象台

(4) 在外公館は、例示の形を標目とする。

日本大使館(在アメリカ合衆国)  
アメリカ合衆国大使館(在日本)  
日本領事館(在スラバヤ)

##### 3.3.2.2.4 (国の立法機関および司法機関)

㊦ 外国の立法機関および司法機関は3.3.2.2.8(2)を見よ。

国の立法機関および司法機関は、その名称を標目とする。

(例) 衆議院 最高裁判所 東京地方裁判所

**3.3.2.2.5** (政府関係機関) 政府関係機関は、その名称を標目とする。

- (例) 日本国有鉄道 旭川駅  
日本電信電話公社 長野通信病院  
日本専売公社 日本専売公社浜松工場  
日本銀行 海外技術協力事業団

**3.3.2.2.6** (地方公共団体)

- (1) 地方公共団体は、その名称を標目とする。  
(例) 大阪府 愛知県議会 東京都教育委員会  
(2) 地方公共団体の付属機関および出先機関は、地方公共団体名を冠した名称を標目とする。  
(例) 京都府労働経済研究所 北海道上川支庁

**3.3.2.2.7** (教育施設)

- (1) 大学、学校等の教育施設は、その名称を標目とする。  
(2) 大学の学部は、大学名を標目とする。  
(例) 東京大学  
(註) 図書の表示は「東京大学文学部」  
(3) 大学に付属または付置する学校、図書館、博物館、研究所、試験所(場)、病院等は、一般によく知られている名称を標目とする。  
(例) 早稲田大学演劇博物館  
慶応義塾大学産業研究所

**3.3.2.2.8** (外国の団体)

- (1) 外国の団体は、わが国慣用の日本語形の名称を標目とする。わが国慣用の日本語形の名称がないときは、図書に表示されている日本語形の名称を標目とし、必要に応じて所在地名等を丸がっこに入れて付記する。  
(2) 外国の政府機関等は、国名、連邦加盟共和国名、州名、邦名、都市名等を冠した名称を標目とする。  
(例) イギリス運輸省

カルフォルニア州水質汚濁防止庁

(かな形の表示があればかな形とし、原綴形しかないときは原綴形とする)

**3.3.2.2.9** (国際団体) 国際的に組織された連盟、学会、協会等は、わが国慣用の名称を標目とする。

## 3.4 標目指示

**3.4.1** 標目指示の記載順序とその番号付与

標目指示の記載順序はつぎの順とし、その番号付与は標目の種類ごとに一連のアラビア数字を用いる。

- (1) 書名標目 書名の位置に記載されている書名、部分書名、副書名、叢書名、注記の位置に記載されている書名、多巻ものの各巻の書名の順。  
(2) 著者標目 人名、団体名の順。それぞれのなかには著者表示の位置に記載されている著者名、注記の位置に記載されている著者名の順。番号に「a」を冠する。  
(3) 件名標目 おもな主題、副次的な主題の順。番号に「s」を冠する。  
(4) 分類標目 「国立国会図書館分類表」分類記号の一連番号を「○」でかこみ、「日本十進分類法」分類記号は(N)を冠して記載する。

**3.4.2** 標目指示の記載位置

標目指示は、記述の下部に記載する。その記載位置は p 28 の例による。

**3.4.3** 標目指示における標目の表わし方

**3.4.3.1** 書名標目 標目は、原則として片かなで表記する。巻次は付加しない。

**3.4.3.2** 著者標目 標目は、原則として片かなで表記する。ただし、付記事項は漢字等を用いる。

標目が記述中の表示によらない場合は、必要に応じてそれに該当する漢字等を丸がっこに入れて付記する。外国人名は現行通り原綴形とする。

**3.4.3.2.1** (人名)

- (1) 姓、名の順に記載し、両者の間をコンマ(,)で区切る。  
(2) 西洋人名中の前置語の扱いは、その著者の国語の慣習に従う。  
(註) 前置語は、一般に名のあとにおかれる。アフリカーンズ語、英語、イタリア語、ルーマニア語(deを除く)においては、姓は前置語からはじまる。フランス語、ドイツ語、スペイン語においては、冠詞または冠詞と前置語の縮約形だけが姓の前におかれる。  
(3) 中国人名、朝鮮人名以外の東洋人名については、それぞれの国の慣習に従った形で記載する。  
(4)~(5) 外国人名は原綴形とし、典拠カードの句読法をそのまま用いる。  
(6) 筆名、雅号、屋号等で知られていて、それが姓と名のように慣用されている人名は、姓と名とからなる人名と同様に扱う。

(例) 東州齋写楽 トウシュウサイ, シャラク  
十辺舎一九(1世) ジッペンシャ, イック  
(1世)  
三遊亭円朝 サンユウテイ, エンチョウ  
江戸川乱歩 エドガワ, ランポ  
獅子文六 シン, ブンロク  
O. ヘンリー ヘンリー, O.

(7) 地名と結びついた形で知られていて、それが姓と名のように慣用されている人名は、姓と名とからなる人名と同様に扱う。

(例) 佐倉宗五郎 サクラ, ソウゴロウ

(8) (6), (7)以外の、姓と名とからは構成されていない人名は、原則として全体を1語として扱う。

(例) 明治天皇 メイジ テンノウ  
則天武后 ソクテン ブコウ  
藤原道綱母 フジワラ ミチツナ ノ ハハ  
清少納言 セイ ショウナゴン  
フランキー堺 フランキー サカイ  
アイ・ジョージ アイ ジョージ  
ドクトル・チエコ ドクトル チエコ  
マダム・マサコ マダム マサコ

### 3.4.3.2.2 (人名の読み)

(1) 人名の読みは、原則として本人に固有の読みを採用する。

(2) 日本人名で、かなで表わされている名がその読みと異なるときは、その読みを記載する。

(例) 村山リウ ムラヤマ, リュウ

(3) 日本のおおよそ中世までの人名で慣用される、姓と名との間の「ノ」の読みは、原則として採用しない。

(例) 山部赤人 ヤマベ, アカヒト  
源実朝 ミナモト, サネトモ  
千利久 セン, リキユウ

(例外) 太安麻呂 オオノ, ヤスマロ  
紀貫之 キノ, ツラユキ

(4) 中国, 朝鮮人名は漢字形を日本語読みする。

## 書名の取扱基準

書名の前にあって、小さな文字の1行書きか、割書きで書名を限定修飾し、または書名に関連して表示されているもので書名の冠称と呼ばれている部分は、次のように扱う。

(1) 著者を表示するものは、著者表示の位置に記載する。

(例) シギア  
ストルテン 有機機器分析入門 小松芳郎, 土田卓共訳  
→有機機器分析入門 シギア, ストルテン [共著] 小松芳郎, 土田卓共訳

(2) 版次・版種を表示するものは、版表示の位置に記載する。

(例) 新訂  
増補 国史大系→国史大系 新訂増補  
縮約 日本文学大辞典→日本文学大辞典 縮約  
カラー版 風俗の歴史→風俗の歴史 カラー版  
◎ 愛蔵版, 限定版, 私家版, 特装版等  
→注記に書く

(3) 巻次, 回次, 年次を表示するものは巻次の位置へ記載する。

(例) 続物理の散歩道→物理の散歩道 続  
第三 物理の散歩道→物理の散歩道 第3  
ただし, 上記の取扱いは継続物に限り, 一回だけのものはそのまま記載する。

(例) 1975年農業センサス農業就業構造統計報告書  
第三次海洋法会議 ニューヨーク夏会期

(4) 叢書名であるのは、叢書注記の位置に記載する。

(例) 歯科衛生教本  
生理 →生理 (歯科衛生士教本)

(5) 書名を説明または補足する形のもの、副書名として扱い、副書名の位置に記載する。

(例) 古寺と古城と泉 武蔵野  
→武蔵野 古寺と古城と泉  
食品コンビナートのパイオニア  
昭和産業  
→昭和産業 食品コンビナートのパイオニア

(6) 副書名としては扱わないが、つぎに挙げるものは副書名に準じて扱い、副書名の位置に記載する。

a 文学作品, 美術作品等の作品形式を表わすもの。ただし必要がないと認めた場合は記載しなくてもよい。  
小説, 歌集, 句集, 詩集, 随筆, 画集, 写真集  
例外的に小説, 随筆等を書名の頭に付することもある。

(例) 小説三井物産, 随筆私本太平記

b 著作の形式を表わすもの

シンポジウム, ルポルタージュ, 共同研究, 遺稿集, 写真集等

c 翻訳書, 注釈書, 校注書等の訳・注形式を表わすもの。ただし, 校注, 校訂等の語が著者表示と重なり, 著者表示に記載する場合は省略する。

全訳, 評訳, 校注, 校訂, 対校, 対訳等

d 副書名に準じて扱うものは上記以外に, 次に挙げるようなものがある。

例解式, 大学教科, 条文つき, 問答式, 質疑応答, 判例解説, 文科教養等

e その他副書名に準じて扱うべきもの

(例) 記念論文集等

松本先生古稀記念  
会社法の諸問題

↓

会社法の諸問題 松本先生古稀記念

(7) つぎに挙げるものは副書名として扱わないで、書名の一部分として扱い、書名と同じ大きさで記載する。

(必要に応じて冠称を除いた書名からも副出する)

a 出版社を表示するもの

(例) 岩波哲学小辞典→岩波哲学小辞典

角川漢和中辞典→角川漢和中辞典

b 時代、年代、地域を表わすもの

(例) 明治以降本邦主要経済統計

→明治以降本邦主要経済統計

戦後文壇事件史→戦後文壇事件史

20世紀アメリカ社会学の進展

→20世紀アメリカ社会学の進展

ヨーロッパカメラで見る八つの目→ヨーロッパカメラで見る八つの目

(註) 遺跡調査報告の場合○○○所在は注記に書く。

(例) 石川県石川郡白峰村

桑島館跡

↓

注記の位置へ石川県石川郡白峰村所在

c 内容を限定するもの

(例) 経営のためのシステム分析入門

→経営のためのシステム分析入門

学校図書館資料の整理

→学校図書館資料の整理

製糸工場工務実態調査報告書

→製糸工場工務実態調査報告書

心理学における科学と偏見→心理学における科学と偏見

d 書名を明確にするためのもの

(例) 私の見た中南米と欧米の国々

→私の見た中南米と欧米の国々

歴史のふるさと大和→歴史のふるさと大和

おかやま  
庶民史 目で聞く話→おかやま庶民史目で聞く話

e 内容の程度を表わすもの

(例) 初級フランス語講座→初級フランス語講座

入門法人税→入門法人税

やさしい  
コンピュータ→やさしいコンピュータ

f 内容の効用を表わすもの

(例) 正しく覚えらるるドイツ語入門

→正しく覚えらるるドイツ語入門

図説による基本相続税→図説による基本相続税

g 図書の特色，性質等を表わすもの

講座，年譜，年表，図解，図説，口述，定本，体系，最新，新編，概説，総説，参考，評伝，応用，実用

(例) <sup>講座</sup>ビッグストアへの道→講座ビッグストアへの道

図説世界文化史大系→図説世界文化史大系

実用 ラーメン計算便覧→実用ラーメン計算便覧

新編電気数学→新編電気数学

概説西洋史→概説西洋史

(注) 「改正 健康保険法解説」のように法律の改正は，必ず記載する。

h その他書名の一部とみなされるもの

(8) (1)～(7)までのいずれにも該当しないものは，一般注記に記載する。



KC 16  
8

### 斎藤茂吉全画集

東京 中央公論美術出版 1966

24p 図版32枚 27cm

縮刷版

内容：茂吉先生の画について 加藤洵綾著。茂吉画業余話 板垣家子夫著。茂吉先生と絵 佐藤佐太郎著。父の絵 斎藤茂太著。斎藤茂吉日記抄

略年譜：p 2

77W78370 1.サイトウ モキチ ゼンガシユウ a 1.サイトウ, モキチ ①KC16  
②721.9

1000円

国図69-2298

AZ  
463  
45

### 新商品区分に基づく類似商品審査基準 特許庁商標

課編 改訂第3版

東京 発明協会 1974

125, 133p 22cm

付：新旧類似商品対照表, 索引

77W59660 1.シンショウヒン クブン ニ モトズク ルイジ ショウヒン シ  
ンサキジュン 2.ルイジ ショウヒン シンサキジュン a1.トッキョ  
チョウ ①AZ-463 ②328.507

1600円

国図76-8541

[例]

DAI  
270

経済学入門 坂内仁著

東京 五月社 1977

153p 22cm

発売：社会評論社

77W21809

1.ケイザイガク ニュウモン a1.バンダイ, ジン s1.経済学

①DA1 ②331

900円

国図77-15168

K27  
15

木、その根まで 精神分析と創造 ドミニック・フェルナン

デス著 岩崎力訳

東京 朝日出版社 1977

372p 22cm

77W22265

1.キ ソノネ マデ a1.Fernandes, Dominique a2.イワサキ, ツ  
トム(1931生) s1.芸術心理学 s2.精神分析 ①K27 ②701.4

2500円

国図77-15448

(注) 標目指示の表記は、当分の間、従前のおりとする。